

[035] 中国文学論集表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/9908>

出版情報：中国文学論集. 35, 2006-12-25. 九州大学中国文学会
バージョン：
権利関係：

まず、この場をお借りして、うれしいニュースをご報告致します。既に新聞等の報道でご存知の方も多いと思いますが、去る十一月三日（文化の日）、岡村繁先生が「第六十五回西日本文化賞」（西日本新聞社）を受賞されました。先生の『陶淵明——世俗と超俗——』や『文選の研究』、『白氏文集』の訳注や『岡村繁全集』をはじめとする数々の業績、そして様々の研究・教育活動が顕彰されたものであります。今回の受賞をお祝いし、併せて先生の今後ますますの御健康をお祈り申し上げます。

さて、ここに『中国文学論集』第三十五号をお届けします。第一稿は本学博士課程に在学中の大淵君、第二稿は同博士課程の陣内君という新進気鋭の二人による初盛唐文学論です。第三稿は、静永先生の論文。妖艶可憐な伝奇小説「任氏伝」と若き日の白居易との関わり、という古典的詩歌・小説を繋ぐ研究です。第四稿は、復旦大学の汪涌豪教授が、古典文学理論における「圖」の意義とその演変を分析された論文をお寄せ下さいました。第五稿、秋吉先生の論文は、我が国戦前の劣悪無惨な中国語教育界の中で、竹内好ら「中国文学研究会」とその機関誌『中国文学（月報）』の功績を見つめ直そうとするものです。第六稿は、竹村先生の『長生殿』訳注です。先生の訳注も本号で十三回を数え、玄宗と楊貴妃の再会もいよいよ間近となりました。第七稿の劉子瑜先生の論文は、粵方言における「述語＋到＋補語」がどのように生成されたのか、その先秦以来の来歴を丹念に辿つたものです。

以上、論文・訳注、併せて七篇。今回も力作揃いで、一編集子として喜びに堪えません。ここに厚く御礼を申し上げます。今後もより多くの会員諸氏が、本誌を介して、それぞれの学問研究を発信されることを祈念いたします。

（土屋）